

県内外の産学官36機関

IT（情報技術）を活用し、住民の健康増進、地域医療の充実、健康産業の創出という「一石三鳥」を実現しようというプロジェクトが全国に先駆け県内で動き出した。四国経済産業局、香川大学、

県医師会など県内外の産学官36機関が設立した「ヘルスケア・イノベーション・フォーラム」だ。関係者は「3年後をめどに目に見える成果を挙げたい」と意気込む。
(二羽俊次)

フォーラム設立し始動



遠隔医療ネットワークの取り組みなどが報告された「ヘルスケア・イノベーション・フォーラム」の第1回事例研究部会＝昨年12月、高松市

糖尿病や脳卒中治療とめ、の認証システムも構築する。フォーラムは昨年11月に設立。12月に初の事例研究部会を開催し、K-MIXやIruCaの取り組みなどが報告された。

フォーラム設立を呼びかけた四国経済産業局の堀口光地域経済部長は「プロジェクトを成功させ、香川から全国モデルとなる事業や新しいサービスを生み出していきたい」と意気込みを述べている。

「一石三鳥」ITで実現を

健康増進

地域医療

産業創出

「3年後に成果」目指す

医療やITの分野で、企業や自治体などが個別に取組んできた各種実証実験や事業の成果を共

同に活用。MIX)を活用。導入の実証実験にも

有し、実用化への課題を話し合う。県内の医療機関のネットワーク化が進んでいることに同局が着目し発案した。

計画では、県医師会が運営し県内外の87医療施設が連携する遠隔医療ネットワークシステム(K-MIX)を活用。年金手帳と健康保険証、介護保険証の機能を集約する社会保障カード導入の実証実験にも

医療機関だけでなく、民間企業などの活用を想定。疾病予防に向けた健康サービス事業創出の可能性を探る。

も近く取り組むほか、個人情報流出を防ぐた